

第十二回

深掘り!

京博バックヤード

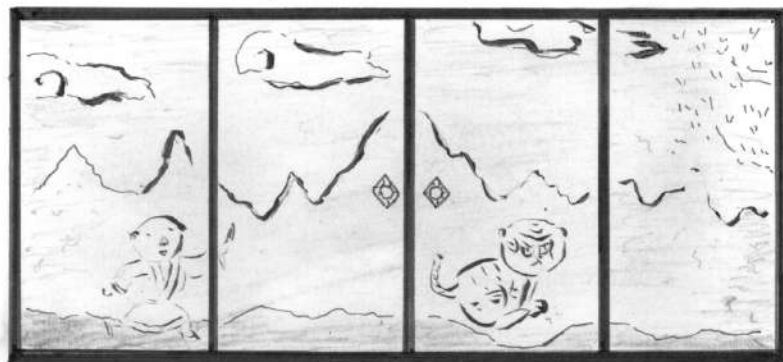
その七

(文化財保存修理所

その五)

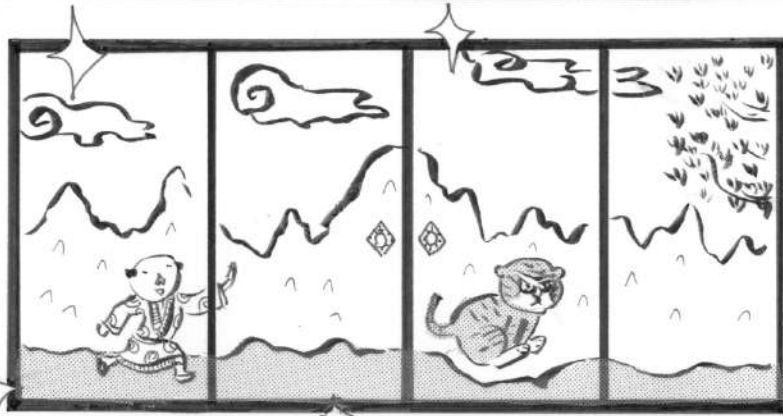


博物館やお寺にある  
古い絵画や屏風や襖絵



これらは最初から  
古かったワケではない  
(当たり前だけど)

古い文化財も

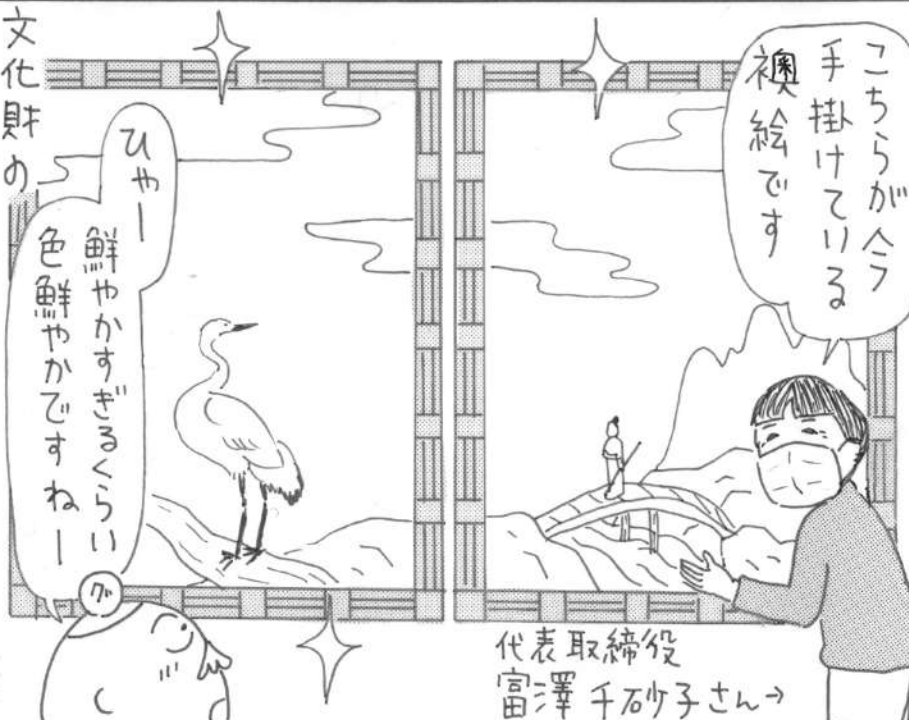


出来上がった時は  
新品だったのだ  
(当たり前だけど)



京博の文化財保存修理所の工房の  
ひとつ 六法美術は

こちらが  
手掛けている  
襖絵です



代表取締役  
富澤千砂子さん

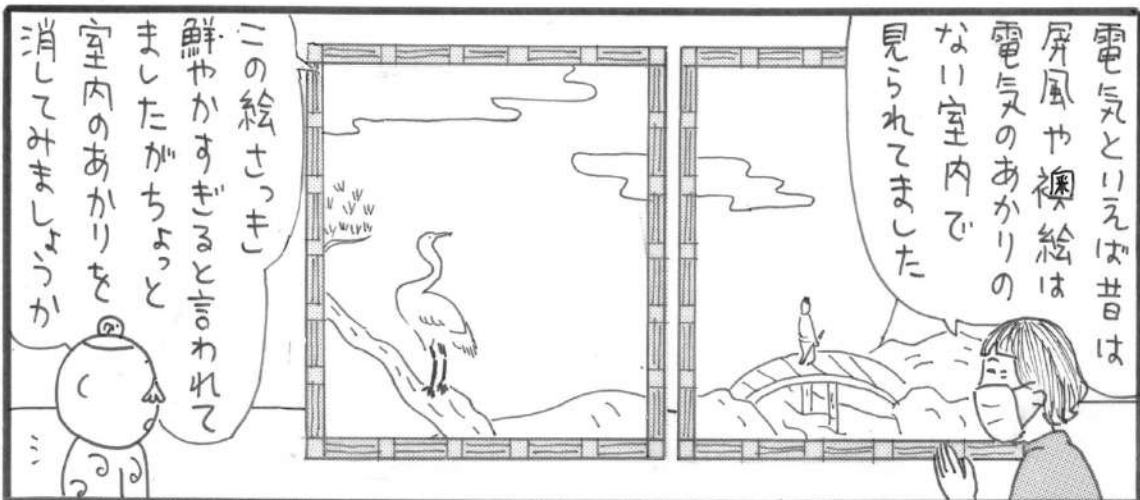
文化財の  
模写を手掛けておられます

ひゃー  
鮮やかすぎるくらい  
色鮮やかですねー





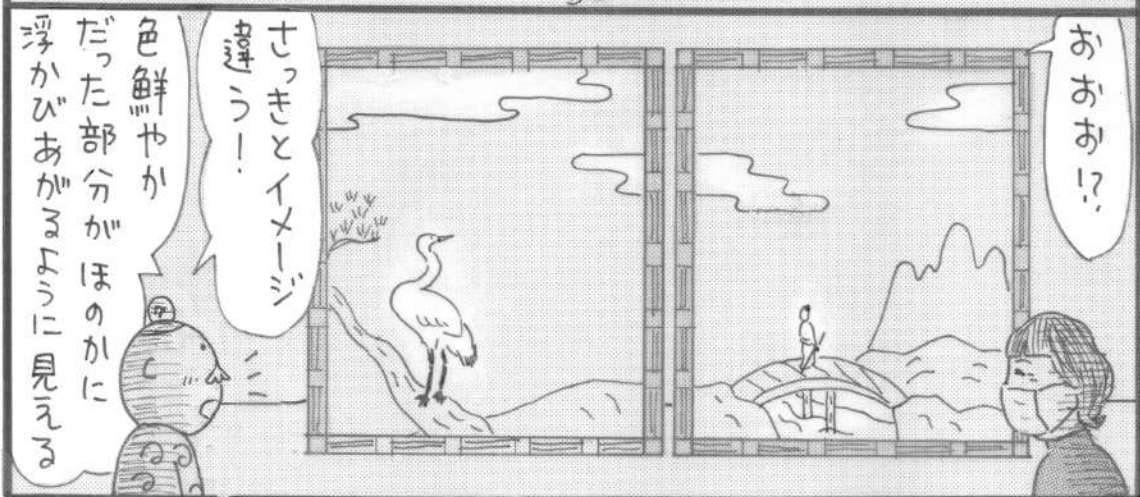
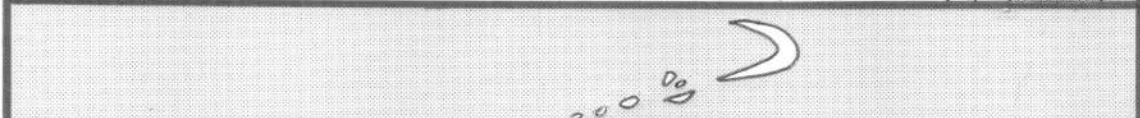




電気といえは昔は  
屏風や襦絵は  
電気のおかげの  
なり室内で  
見られてました

この絵(こっキ)

鮮やかすぎると言われて  
ましたがちよっと  
室内のあかりを  
消してみましようか



おおお!!

すっきとイメージ  
おほー!

色鮮やか  
だった部分がほのかに  
浮かびあがるように見える



同じ絵なのに気品と神秘的な  
感じが増した  
みたい...

これを元々  
あった場所に  
置く時が  
私たちの何より  
うれしい瞬間です

そうか...これを元にあつた  
場所に置いてあるのを見た...

ああこれが  
新しい  
襦絵か

美しい  
のう...

この絵が出来た  
ばかりの頃に目  
にした人の追体験が  
できますねえ

そうですね復元模写も  
当時の職人や絵師の  
仕事を追体験  
すること  
なんです

職人さんは  
当時と同じ  
技術で

紙や絹を  
作り

私たちは  
その紙や  
絹の表面の

凸凹をなくす

ために破で  
打ったり

キラ引きを  
したり

当時の  
絵師がしていた  
ことと同じことをします



※雲母(鉱物の一種)を塗って  
筆の走りをもたしくする(かせ出る)

こうして追体験している  
うちにー

それにしても  
この絵文献  
ではやけに  
納期が短い  
けどこんなに  
早く描ける  
ものなの？

絹の表と裏から  
彩色してあるけど...



ハッ

もしかしてこの絵  
立てて描いたんじや  
ないかしら!?



※昔通日本画は寝かせて描く

ホラ!  
数人で  
作業が  
できて  
効率  
がいい!

納期の短さの秘密はこれ!?



ーって絵の  
謎が導かれる  
ように解けたり  
するんですよ

み...みちびかれ...



話の深さに

気が遠くなる



